

事務事業評価シート

評価対象年度	平成 20 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	心の健康づくり・自殺予防対策事業費				
担 当 課 係 名	保健 課		- 係	作成者	赤坂宏秀
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち			総合計画のページ
	基本計画	健康づくりの推進と病気予防体制の充実			
	主要施策	自殺予防対策事業			44
予 算 費 目	一般 会計	4 款 衛生費	1 項 保健衛生費	1 目 保健衛生総務費	
事 業 期 間	平成 19 年度 ~ 平成 21 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	自殺対策基本法				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市民に対し、自殺予防に関する情報の提供と普及啓発活動。
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	すべての世代における自殺者数の減少。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	心の健康づくり教室、ふれあいサポーター養成講座、自殺予防シンポジウムの開催等の実施。

【事務事業の推移】

項 目		単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績
効果	活動指標	目標	人	18	14
		実績	人	14	
		達成度	%	77.8%	0.0%
	成果指標	目標	%	45.1	38.0
		実績	%	45.2	
		達成度	%	100.2%	0.0%
投下コスト	項 目	総事業費	18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)
	事業費（人件費を除く）(A)			841	782
	人 件 費 (B)	—		5,650	5,548
	職 員 数	—		0.70	0.70
	職 員 平 均 人 件 費	—		8,071	7,925
	(A) + (B) 投下コスト			6,491	6,330
	財源内訳				
	国 庫 支 出 金				
	県 支 出 金			417	398
	地 方 債				
	そ の 他				
単位コスト	一般財源			6,074	5,932
	活動指標1単位当たりコスト(円)	—		463,643	#DIV/0!
	市民1人当たりのコスト(円)	—		206	204

【事務事業の今までの成果】

心の健康づくり教室、ふれあいサポーター養成講座、自殺予防シンポジウム等を開催して啓蒙を図っている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県の自殺率は、平成7年度から14年連続全国ワースト1位となっている。このため県では自殺予防実践市町村に補助を行っている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	シンポジウムや各種自殺予防対策事業への参加者が増え、自殺予防に対する意識が高まってきている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	A 現状のまま継続（実施）	秋田県の自殺率は依然として高く、その中でも仙北市は、県内及び管内でも自殺率が高く、手段等を検討しながら継続すべき事業と判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

心の健康づくり教室、ふれあいサポーター養成講座の開催やチラシ等を配付し、更なる啓蒙、自殺予防対策に努める。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	自殺予防は全県的な課題であることから、県や他の活動主体との適切な連携・役割分担のもと、更なる推進が必要と考えます。

一次評価診断図

